

蕪崎市立蕪崎北東小学校

令和7年度 学校関係者評価書

蕪崎北東小学校学校運営協議会

はじめに

新学習指導要領を目指した中央教育審議会より論点整理が出された。「深い学びの実装」と「多様性の包摂」が掲げられ、学校現場では「誰一人取り残すことのない令和の日本型学校教育」をさらに進めることが求められている。また一方で、教育DXや働き方改革など学校運営そのものの見直しも進められる中、学校現場は変化の過渡期にあると言える。蕪崎北東小学校では、ベテランも若い職員も含めて、教職員数の多さとそれぞれのもつ専門性を強みとして、全職員で意見交換をしながら、学校教育のより良い方向を模索し、実行し続けている。そのような中での学校評価である。まず、自己評価・児童アンケート・保護者アンケートの結果を職員全員で真摯に受け止め、成果や課題を考察し、今後の取り組みについてまとめた。そして、蕪崎北東小学校学校運営協議会を開催し、より良い学校経営へと向かうよう話し合いの機会をもった。委員一人一人がそれぞれの立場から意見を出し、有意義な時間となった。今後の学校運営の一つの指針としたい。

○蕪崎北東小学校学校運営協議会 委員 8名

地域住民	会長 作地 眞
地域住民	副会長 若尾 剛
地域住民	野田 ひろみ
地域住民	深澤 義文
保護者	輿石 麻美
地域住民	平賀 薫
地域住民	樽林 一三
校長	小田切 真喜

これまでの経過

	学校評価の流れ	評価委員に関わる内容
4/11 (金)		第1回蕪崎北東小学校学校運営協議会
7月中	前期：職員アンケート	
夏季休業中	前期学校評価：職員説明（職員会議）	
8/18 (月)		第2回蕪崎北東小学校学校運営協議会（熟議）
12月上旬	後期：職員アンケート 児童・保護者アンケート 実施	
1月	学校評価のまとめ完成 職員説明（職員会議）	
2/10 (火)		第3回蕪崎北東小学校学校運営協議会
3月	学校関係者評価書 職員報告（終礼） 学校関係者評価委員に配布 蕪崎市教育委員会に提出	
3月中	（校長）蕪崎市立蕪崎北東小学校 令和8年度グランドデザイン完成	

Ⅰ 学校評価の実施において 学校の考察



自己評価の結果を受けて

全体を通して

全体的に肯定的な評価が多く、学校長の考える学校経営グランドデザインのもと、全教職員が一丸となって教育活動に取り組んでいると言える。ただ、細かに見ると、評価の柱建てごとに A 評価の多い柱と、B 評価の多い柱とが顕著に分かれていることが分かる。全職員で取り組む面の強い「学校運営」や「特別支援教育」「学校の特色ある教育」については、肯定的な意見の中でも A 評価が多かった。これは、全職員で共通理解を図りながら、協働して北東小教育を進めていることの成果だと感じる。半面、学習指導・生徒指導など各教員が個別で実践する場面の多い柱については、肯定的な意見の中でも B 評価が多い。今後は、全教職員が同じ目標に向かって自信を持って指導できるよう、さらにチーム学校としての意識を高めることが必要である。今後も、一つ一つの課題に全職員で共通理解を図りながら取り組み、誰一人取り残さない教職員集団をつくっていききたい。

Ⅰ 学校教育目標・学校経営について（項目Ⅰ①～⑤）

- ・設問②「学年の教育活動計画」と設問④「経営方針に基づいた教育活動」の2点については、1学期と比べて2学期は評価が下がっている。これまでの教職員の真摯な姿に鑑みれば、これは、各教職員が個々の資質能力を向上させていく中で、更に目標を高く掲げより高みを目指している表れであり、意欲の高まりととらえることができる。今後も、子供たちにとってより良い教育の具現化を意識し、その実現に努めたい。
- ・教育活動計画のうち、標準授業時数に基づいて年間授業時数を設定するために、各教科の授業時数を適正に保つための工夫を進めていかなければならない。さらには、専科教員などの指導時間の確保や特に標準授業時数の多い国語の時間の確保などの課題もある。学級や学年ごとに教科の授業進度を見据えながら、その調整については教務主任と学年主任とで連携を図りながら、適切に進めていく必要がある。
- ・設問③「福利厚生や健康管理」については、「ややそう思う」が昨年度から変わらず約6割を占めている。教職員個々が職務の遂行と健康維持管理のバランスを自覚した働き方に取り組むとともに、学校としても県教委の示す働き方改革の具体的方針に沿って、さらに一歩進んだ学校経営の改革を進める必要があると考える。

Ⅱ 学校運営について（Ⅱ①～⑥）

- ・設問①「危機管理の理解」では、評価が下がっている。今日、いじめや不登校、施設管理、自然災害対応、感染症対策など様々な危機があるが、子供たちの命を預かる学校の使命として、これら全てに万全の態勢で臨んでいかなければならない。今後も、あらゆる危機管理に対して、それぞれの場面・場所において全教職員で確認し、安心・安全の管理に努めたい。
- ・設問③「自分もつ校務分掌の機能の充実」については、評価が下がっている。分掌の取組に関しては、それぞれの役割が機能するだけでなく、より良い教育や働き方改革なども鑑みて、個々の担当が工夫改善しながら進めることが大切である。そういった意識を全職員で共通理解し、今後の分掌業務にあたっていききたい。
- ・設問②「働き方改革の意識」については、肯定的な意見が増え、職員の意識が高まっている

ことがわかる。学校長の示した「日課表の変更」などの具体策に対して、職員がその効果を実感したこともその大きな理由の一つといえる。これまでの慣習を踏襲することなく、新たな取り組みに進むことの大切さを感じた。

Ⅲ 学習指導について（Ⅲ①～⑩）

- ・本年度、本校では校内研究会で「個別最適な学びと協働的な学びの一体的充実」に取り組んできた。その点からも、学習指導の工夫改善については、教職員の意識は飛躍的に高まっている。今後も、同僚性を生かした研究に取り組み、教職員の教員としての資質・能力を高めしていくことが大切である。
- ・設問③「ICTを効果的に活用した授業」については、A評価が減っているが、これは意欲の表れととらえたい。なぜなら、ICTの効果的な使い方はまだまだ未知の部分が多く、より良く活用していくためには学びと経験が必要だと教職員自身が感じているからだろう。今後も校内研究の反省に基づいた課題解決に向けた取り組みを継続し、相互授業参観などの同僚性を生かした教職員の学びの風土をつくっていくことが大切である。

Ⅳ 生徒指導について（Ⅳ①～⑩）

- ・学校の重点目標である「あいさつ・履き物揃え・無言清掃」の3点は、評価が高く、全ての教職員が意識し取り組んでいることがわかる。これからも、全職員で共通理解を図り、児童への統一した指導を進めていきたい。また、教師自身が進んで手本を示したり、実践している児童を大いに認めたりする等、教師自身の意図的な働きかけを積み重ね、継続していくことも大切にしていきたい。

Ⅴ 地域との連携について（Ⅴ①～④）

- ・人材活用については、いずれの学年でも積極的に活用するとともに、その様子を各種のお便りやブログで発信しており、設問①「地域の人材や施設と活用した授業」、設問②「教育活動の広報」の結果からも、その面での教職員の意識が高いことが分かる。今後も学校運営協議会と連携する中で地域の人材や資源の活用を進めるとともに、新しく刷新されたホームページやブログ等も積極的に活用し、地域との連携を図っていくことが必要である。
- ・設問④「保護者の生活指導や学習指導への協力」については、まず学校側から保護者・地域への情報発信を丁寧に行うこと、そして共通理解を図ることを基本としていきたい。

Ⅵ 学校の特色について（Ⅵ①～④）

- ・設問①「児童の情報活用能力の育成」については、肯定的な意見が多い中でもB評価の割合が高い。情報活用といっても、それぞれの学習場面や個々の児童の特性に沿って、インターネットや本で調べたり、専門家から話を聞いたりなど、その調べ方は多岐にわたり、教師の授業づくりに任される部分が多い。有効な方法を職員間で手軽に紹介し合う時間を設けるなどして、教職員個々の資質・能力の向上に努めたい。

児童アンケートの結果を受けて



学校からの考察

全体を通して

全体的に肯定的な評価が多かった。ただ、設問1「学校が楽しい」について、93%の児童が肯定的な回答であり、児童の多くが楽しく安心して学校生活を過ごしていることがわかる。ただ、昨年度に比べると肯定的な回答の中でも若干B評価が増えていたり、7%の児童が否定的な回答をしていたりする現実がある。また、その他の回答でも、肯定的な回答が減っていたり、D評価が見られるようになったりといった設問も若干見られる。学校生活において、少なからず課題を感じている児童がいる現実を受け止め、今後も職員全員で指導の共通理解を図り、全校児童を見守り、声をかけ、さらに安心感のある学校生活へと支援していきたい。

学校での学習・授業について（設問2～7）

○今、教育に求められているのは、自立した学習者を育成することである。そのための個別最適な学びと協働的な学びの一体的充実であり、児童自身の自己調整の促しである。この1年間、本校でも校内研究会で「自ら学び、考え、表現できる児童の育成～個別最適な学びと協働的な学びの一体的充実を通して～」について研究を深めてきた。研究主任を中心に、今、どのような授業づくりが求められているのかを全職員で考え、実践を積み重ね、互いに見合う中で個々の授業力を高めてきた。まだ研究半ばであるが、いずれの学年でも生き生きと学習に取り組む児童の姿が見られた。今回のアンケート結果は、これら教師の取り組み方も反映されていると感じる。改善していける点をさらに考察し、今後もよりよい授業を模索したい。

- ・設問2「学校で学習したことがよくわかるか」については、95%の児童が肯定的な回答であり、多くはその児童なりに理解できている。8%の否定的な回答をしている児童を含めて全児童を大切にするために、今後も教師が教えることに向き合い、学習支援担当との連携を深め、個別最適な学習のうち指導の個別化を進めることで誰も取り残さない学びを実現していきたい。
- ・設問3「分からないことを友達や先生に教えてもらっている」では、肯定的な回答が多かった。協働的な学びを授業の中で積極的に取り入れ、学びあいの風土をつくってきた成果であると感じる。協働的な学びの本質が、答えを教えあうことではなく「児童がより良い考えに気づくこと」であることを共通理解し、今後も協働的な学びのスタイルを取り入れてしていきたい。
- ・設問4「ノートを丁寧に書いている」の回答結果について、ICT機器を使う場面が非常に増え、それまで紙のノートやワークシートに書くことを基本としていたが、一人一台端末内のシートにメモしたり書き込んだりする場面が非常に多くなった。紙や端末内にかかわらず、シートに書くことをしっかりと指導すること、また紙のノートへの書き方の指導を継続すること、この2点に気を配っていききたい。
- ・設問5「授業中、自分の考えを発表している」について、否定的な回答の児童が34%おり、発表に対して意欲の低い児童がいることがわかる。ただ、設問6「話し合う活動や教えあう活動」については肯定的な回答が多いことから、協働的な学びを工夫する中で、話すことへの抵抗感とわかりやすく伝えるための表現力を育て、あらたまった場でも進んで発表できる意欲を育てることも必要であろう。
- ・設問7「進んで学習するようになった」については、肯定的な回答の中でもA回答が増えている。主体的な学びが実現されてきていることを感じる。引き続き児童が興味・関心をもつ課題を工夫し、取り組みへの主体性を引き出し、その結果を誉め、次につながる意欲へと高めていきたい。

家での学習に関して（8～10）

○家庭での学習については肯定的な回答が多く、よく取り組んでいる。ただ、若干であれ否定的な回答が年々増えている現実を鑑みると、家庭と連携して家庭学習への取り組みを励まし習慣づけていく必要がある。

- ・設問8「家庭学習の仕方がわかるようになった」、設問9「宿題を忘れずにやってくるようになった」については90%近くの児童が肯定的な回答である。ただ、否定的な回答が若干増えている現実が見られる。児童の実態に合った宿題を出し、家庭と連携してその取り組み方を評価していくことも大切にしていきたい。
- ・設問10「去年より（低学年は1学期より）宿題以外の家庭学習をしている」については、評価ごとの人数にばらつきがあることから、個人差が大きいと考える。下校後の生活の様相が異なり、一様に児童に期待することはできないが、特に高学年においては、自主勉強などを工夫させ、主体的な学びができるよう励ましていきたい。

学校での生活に関して（11～20）

○全体的に肯定的な回答が多い。ただ、目の前の子供たちを見ると、生活様式や習慣が多様化し、集団における生活習慣の徹底が図られにくくなっている面が見られる。

- ・設問11「学校のきまり」設問13「学校内でのあいさつ」設問18「給食前の手洗い、食後の歯磨きをきちんとしている」については肯定的な回答が多く、児童は学校の決まりをよくまもって、校内であいさつをしたり、手洗い・歯磨きなどをしたりしている。学校のきまりについては、今後も教職員で共通理解し、軽重や足並みのそろった指導を進めていくことを大切にしたい。
- ・友達に関しては、設問15「友達と仲良く」設問16「仲良しの友達がいる」から、友達とうまく人間関係を築けている児童が多いことがわかる。ただ、設問14「困ったことがあるときは、先生や友達に相談しているか」について、16%の児童が否定的な回答をしていることは見過ごせない。まず、担任や関わる職員が児童と悩みを相談できる人間関係をつくり、児童一人一人の様子を観察し、気になる児童についてはこちらから声をかけるようにすることなどを常態化する。また、特に気になる児童についてはスクールカウンセラーと連携し、専門的な立場からの関りと支援をいただけるようにしたい。
- ・設問12「登下校をきちんとしている」について、肯定的な回答が多い。ただ、実際には歩き方やバスの乗り方において課題も見られる。本校は学区が広く、登下校の方法も徒歩やお迎え、児童館利用、スクールバス利用など様々であるが、これからも各地区担当を中心に丁寧に登下校指導を行っていきたい。
- ・図書館では本の紹介や読書祭りのイベント、読み聞かせなど、児童会活動でも縦割り読書など、児童が本に興味をもつ活動を工夫している。ただ、設問17「図書館の本をよく借りて読んでいる」から、個人差が課題として挙げられる。各学級で図書館を利用する時間を設定したり、隙間時間に読書を進めたりするなどに努めたい。
- ・設問19「給食を楽しく残さず食べている」設問20「無言清掃をきていんとしている」については、いずれも多くの児童が肯定的な回答である。ただ、職員がともに活動する中で、給食メニューの好き嫌いや掃除の取り組みの丁寧さに個人差が見られるので、一人一人の課題に寄り添い、個別に声をかけ支援を進めたい。

家庭での生活に関して（21～25）

○児童の生活が多様化・個別化している現実が見られる。家庭の態様や考え方が大きく反映されていることが多いが、学校としては児童の心と体の健康を第一に、家庭でもその子なりの成長の図れる過ごし方について連携していきたい。

- ・設問 23「テレビやユーチューブなどを見る時間」設問 24「パソコンやゲーム機を使う時間」はともに、使う時間が増えている。気軽に一人で楽しい時間を過ごすことができるアイテムである。ただ、健康上の問題やメディアリテラシーの問題などがあるため、その使い方については児童に指導するとともに、家庭にもルールを設けた使い方の協力をお願いする必要がある。

保護者アンケートの結果を受けて



学校からの考察

全体を通して

すべての項目で肯定的な回答が90%以上であり、保護者の多くは学校経営を評価し、信頼をよせていただいていることが分かる。ただ、否定的な回答があることも認識し、その理由の一つ一つに耳を傾け、改善すべき点については真摯に取り組んでいきたい。そして、児童のより良い成長のために保護者と足並みのそろった学校運営を行っていきたい。

学校教育目標と学校経営方針について（1）

- ・肯定的な回答が99%であり、ほとんどの保護者が北東小学校の学校教育の方向性を理解し、同じ方向を向いて児童に向き合っていただいていることがわかる。それぞれの内容についてのお知らせの仕方については、PTA 行事などでの校長による説明、ホームページの活用、学校運営協議会を通じた説明、学校行事で関わりのある内容への紐づけなど、様々に工夫し、より保護者に浸透するように工夫したい。

学校の教育活動について（2～4）

- ・肯定的な回答が97%を超えており、保護者が本校の教育活動に共感していただいていることがわかる。特に、「自ら考え学ぶ子供の育成」については、現在、力を入れている校内研究内容であり、そこにご理解いただいていることがありがたい。今後も、地域人材の活用や地域教材の導入を一層進め、リアル体験によって児童が実感をもって学ぶことのできる活動を設定し、学校や家族、地域を愛する児童の育成に向かいたい。

環境整備と安全確保（設問5，6）

- ・校舎については、築36年を迎えており、老朽化は否めない。ただ、修繕箇所はできるだけ修繕して使いやすくし、児童には丁寧な使い方の指導を行い、また児童が日々の掃除に熱心に取り組み、職員・児童みんなで校舎を大事に使っている。今後も、児童の安全に関わる大きなものについては、早急に市と協議しながら修繕を進めるとともに、校内レベルでもできる努力をしながら、なじみある校舎を大事に使っていききたい。
- ・登下校の安全については、肯定的な回答が多いが、AB 評価を比較したときに、若干 B 評価が増えている点が課題である。実際にスクールボランティアさんの数は減っており、見守り

が十分とはいえない場面もあると感じる。今後も地域への安全見守りの協力要請を粘り強く続けると共に、地区担当教員による下校時の指導などを確実に行っていく。また、今後は保護者と協働した見守り活動についても模索する必要があると考えます。

学習指導と生活指導（設問7～10）

- ・いずれの項目も肯定的な回答が96%を超えており、学校の指導について評価をいただいていることがありがたい。その思いは、児童を家庭と学校とが共に育成していく大きな基盤となる。学校は、変容する学校教育や多様化する子供たちの実態を把握し、今後も個々の児童がそれぞれに成長できる学校教育の実現のために、日々の子供たちへの関りを大切にしていきたい。

学校での生活（設問11）

- ・高い肯定的な回答をいただいております、ありがとうございます。年度当初に「いじめ基本計画」や「学校のきまり」などについて全職員で確認しあい、問題が起きた時には職員間で情報共有して児童に向き合ってきた。今後も、本校なりのルールを指導するとともに、「心の教育」や道徳教育、その他心の成長が図れる場を捉えて、より良いコミュニケーション能力の素地を育てていくことが大切である。

学校と地域・家庭（設問12～14）

- ・家庭との連携は、学校が最も大切にしていることの一つである。より良い子供の育成は、家庭と学校が子どもを真ん中において共通理解を図り、共に子供を支援していくことが大前提となる。学校としては、これからも学校の基本的方針や学校での児童の生活の様子をこまめに適切に発信し、また保護者の悩みや心配にも寄り添い、パートナーとしての信頼関係を気づいていきたい。

2 学校運営協議会委員からの意見・提案と学校からの回答

○体育の授業で、夏のプール学習が減っているように感じる。プールから聞こえる子供たちの声やはしゃぐ姿があまり見えてこない。水での事故なども懸念される中、水泳力を高めることも大切ではないか。学校でのプール学習を行う必要を感じる。

⇒（学校から）プール学習は基本的に短期間に集中して実施せざるを得ない。その理由として、①熱中症指数が高まると外での学習が制限される、②雷が鳴ると屋外に避難する必要がある、③夏季休業中にプール開設をした場合、行き帰りの暑さから健康上の問題が懸念される、などである。このような現状の中、学校としては、教育課程で示されている指導内容を網羅し、短期間でも確実に指導することに努めるとともに、児童の泳力の向上を図っている。

○日課上の工夫がなされたが、それは何を目的としているのか。どのような良さがあるのか。

⇒（学校から／保護者・児童からのアンケート結果を示しながら）現在、学校教育は大きく様変わりしており、個別最適な学習と協働的な学習の一体的な充実の観点から、ICT 機器や

一人一台端末の積極的な活用や指導方法の改善が求められている。そのために、教師自身の子供と向き合う時間の確保、すなわち授業の準備や研究を進める時間が必要である。ただ、現状の日課では教師の放課後の時間が1時間に満たず、十分とは言い難い。新日課表の実施は、放課後の教師の時間を確保し、児童により良い教育を行うための方策の一つである。なお、児童の家庭に帰ってからの過ごし方や児童センターとの調整など課題はあるが、一つ一つ解決し、より良い教育の実現を目指していきたい。

○学級閉鎖などで、授業の行われなことがあるが、その分の授業はどのように確保しているのか。

⇒(学校から)実際に実施できなかった授業を時間的にプラスして補充することは難しい。そこで、教科間での授業時数の調整をしたり、学習内容を合わせて実施したりなど、未修の内容がないように工夫している。

○教育の世界で加速度的に進められているICT化やDX化は、社会でも現実的に進められている。私自身が仕事で日常業務にあたる中、改めてメモに書くことやノートに記すことの大切さを実感することが多い。学校教育ではどのような状況か。

⇒(学校から)文部科学省が「ICTを活用し、個別最適な学習と協働的な学習の一体化を図る」という具体的な方策を提示してから、学校教育はICTをいかに有効的に授業に組み込むかを重要視し、授業づくりを進めてきた感がある。もちろんそれは必要なことであるが、ただ、児童の現状をみると、「自分の手で書く」という活動が減り、ノートをしっかりとれないなどの課題もじられる。本校としては、「自分の手で紙に書く」場面の大切さを職員で共有し、書く場面を大切にしたい指導を進めていきたい。

○家庭学習の出し方に課題を感じることもある。学習内容がしっかり理解できない児童がいるとしたら、その児童に宿題として課題を出すことは、児童や家庭にとっての負担になってしまうのではないか。できるなら、教師には、宿題を出さずに学校の学習のみで児童の学力を高めるといった手腕を期待したい。

⇒(学校から)各担任は、それぞれの学年や学級に合った家庭での課題を出している。家庭学習は、学力の定着を図るだけでなく、家庭での学習習慣の定着も目指すことから、学校としては大切なことだと考えている。今後も、家庭と共通理解を図り、家庭学習時間の確保とその習慣としての定着を図っていきたい。

○(上記に関連して、他の委員から)家に帰る前に、地域で宿題や課題を見る場所があってもいいかもしれない。これまでもそのようなアイデアが出されたこともあるが、実際に実施していくには課題があっても実施までにいたっていない。それらを克服できるかを、これからも考えていきたい。